

# 世界連邦 Newsletter

2013年11月28日

第620号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 F A X (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部100円(年6回 奇数月1回28日発行)

## 第31回世界連邦日本大会 大阪中之島で開催



れぞれの活動を報告。横路孝弘氏は第6回世界連邦実現に関する政策提言でと国際連帯税(航空券取引税や金融取引税)について触れた。

山崎善也氏は中東和平プロジェクトについて述べ、イスラエルとパレスチナの紛争遺児の交流事業がかの地での平和を求める機運を醸成することに役立つことを語った。日下部禧代子理事長は銃で撃たれても、女性への教育の重要性を訴える少女マララさんの話や世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクールについて触れ、子ども達が作品づくりを通じて平和について考える重要性を解き、また会場を埋めた主催支部で

ある京都・大阪府支部のご婦人の力に敬意を表した。続いて活動報告として、今大会の実行委員長である税所涼子京都・大阪府支部長から平和出前授業の実施内容の報告がなされビデオが上映された。

第31回世界連邦日本大会 in 大阪 2013 が 11月10日、中之島の大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で開催され、約1000名が参加した。主催は世界連邦推進日本協議会。後援は外務省、文部科学省、大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、大阪日日新聞、京都新聞。テーマは「今こそ、世界連邦を! ~実現しよう、世界の平和と人類の共生~」。

そして同出前授業を実施した大阪市立大淀小学校6年生の皆さんが高坂今日子先生の指揮のもと、ふるさとなどコーラスを三曲披露し、感銘を与えた。

休憩時間中のアトラクションではニヤニヤティ演奏をアニャンゴさんが行った。

午後2時から税所涼子実行委員長が開会宣言を行い、日下部禧代子理事長が海部俊樹会長のメッセージを代読。続いて宗教委員会代理で松本達也人類愛善会大本大阪本苑長の司式により、台風26・27号で大島を中心に被害に遭われた方や東日本大震災で亡くなられた方々および世界連邦運動のために力を尽くした故人のために平和記念黙祷が捧げられ、ジョセフ・シンバ WFM ウガンダ会長の挨拶やウィリアム・R・ペイス氏のビデオレターの披露、大阪府知事、大阪市長のメッセージの代読があり、来賓方々の紹介等が行われ開会行事を終えた。

休憩後、田原総一郎氏が「どうなる世界の平和」と題して、ご自身の体験から、正義の意味が体制によって何度どころと変わったこと、近隣の国とは特に仲良くしなければならないこと、世界の平和には原子力発電の核の最終処分を国際的に共同でやる必要があることなどを述べた。

午後4時45分から閉会行事に移り、平口哲夫宣言起草委員長が朗読した宣言文が拍手で採択され、日本大会は閉会された。

午後5時半から会場の隣りのリーガロイヤルホテルの二階で懇親会が和やかに行われ、全ての日程を終了した。

(阿久根 武志)

## 政策フォーラム



世界連邦運動協会の木戸寛孝常務理事がコーディネーターとなり、世界連邦推進日本協議会の構成四団体の説明の後、政策フォーラムをスタートした。

まず横路氏が国会委員会の活動に触れ、第六回世界連邦実現に関する政策提言と、国際連帯税（とくに航空券連帯税と金融取引税）について言及した。

<世界連邦自治体協議会・山崎善也会長>

山崎氏が市長を務める京都の綾部市が世界連邦宣言をした最初の自治体である。職員を通じ

て「1日100円募金運動」を行い、さまざまな平和運動に役立っている。

その一つの例として「中東和平プロジェクト」について紹介したい。イスラエル・パレスチナの双方から紛争で肉親などを失った子を招き、日本で交流する活動だ。交流をする中で、実はお互いが戦争の犠牲者であることに気づき、平和の大切さを知る。三年ぶりに開催された今回、子供たちは安倍総理にも直接会い、メッセージを届けた。

かつての実施例で、子どもたちが帰国すると、空港ではイスラエルの子はすぐにチェックが終わるが、パレスチナの子に対してはチェックに時間がかかる。イスラエルの子はすぐに家族と会いたいであろうに、パレスチナの子のチェックが済むのを待って、手をつないで一緒に帰ったというエピソードがあった。

またある少年は「今までは中東和平は難しいと思っていたが自分の親の世代はだめでも、自分たちの世代



でなら和解できるかもしれないと思うようになった」



というメッセージをくれた。こういう話を聞いて、心からこのプロジェクトをやって良かったと思う。

今後、平和市長会議や世界連邦推進日本協議会の他の構成団体との連携を強化したい。まず顔を合わせ言葉を交わす。デジタル時代であればこそ、アナログが大切だ。だからこそこの日本大会の意義が大きい。

<世界連邦運動協会・日下部禧代子理事長>

まずはこんなにたくさんの方にお集まりいただいたことを喜びたい。今回主催した京都・大阪府支部は支部長も理事もみな女性で、そのためか女性の参加者が多く華やいだ雰囲気うれしい。みなさまには世界連邦という大きな理念を具現化するためのスキームを理解してほしい。世界連邦推進日本協議会ではほぼ毎年、世界連邦実現に関する政策提言を行っており、世界連邦実現に向けて日本政府が動くように働きかけている。戦後、戦争を知らない世代が一億人を超え、広島に原爆が落ちた日を知っている人がたったの27%である。平和について考えを深めるためにも、第42回を迎える世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクールや、京都・大阪府支部が実施している出前平和授業の意義が大きい。

パキスタンの17歳の少女、マララさんは「女性にも教育を」と訴えて撃たれた。学校へ行けない人が7500万人いてその半分以上が女性。読み書きができない人が7億7千万人いてその三分の二が女性。「一人の子ども、一人の教師、そして一本のペンと本が、世界を変える」マララさんはこう言った。女性への教育は重要だ。

## 田原総一郎氏 記念講演



私のジャーナリストとしての原点は小学校 6 年生の夏休みに始まる。8 月 15 日戦争が終わった、というより負けた。玉音放送があるというのでみんなでラジオを聞いたが、ノイズが多く、よくわからなかった。聞いていた周囲の人で意見が割れた。「堪えがたきを堪え、忍びがたきを忍び」というのは、まだ戦い続けるのだと解釈する人と、いや戦争は終わったのだと解釈する人がいた。午後、市役所の人がメガホンで戦争が終わったことを告げた。私は悲しくて泣きに泣いた。

それまで日本は正しい戦争をしていると教えられていた。アジアが英米仏蘭の植民地になっており、それを解放するための正しい戦争だと教えられていたので、早く大きくなって戦おうと思った。「君らの寿命は 20 歳と思え。天皇陛下のために戦って死ね」と教えられた。当時、進む道は陸軍か海軍の二つしかなかった。陸軍は行軍で長く歩かされるし、海軍の方が格好いいと思っていた。ところが戦争が終わって前途が絶望だと思った。だから泣いて泣いて泣きつかれて寝てしまった。

起きたら夜だった。外を見たら、今までは爆撃されないように灯火管制が敷かれていたが、灯火管制がなくなって明るくなっており、何となく解放された気持ちになった。

2 学期になって、学校の先生が「あれは間違った戦争だった」と言った。今まで「あれは正しい戦争だ」と言っていたのと同じ先生がそう言った。1 学期まで英雄だった東条英機が犯罪者扱いになっていた。

先生達は、「もし戦争が起こりそうになったら、君達

が身体を張って戦争を止めろ」と言った。高校生になった時、朝鮮戦争が起きたので、かつて教わったことを思い出し、戦争に反対した。そうしたら「お前は共産党員か」と言われた。当時、レッドパージと言って、共産党を追放する動きが大きくなっていった。偉い人の言うことがコロコロ変わる。偉い人の言うことは信用できない。偉い人は嘘つきばかりだ。一番の嘘つきは、国家・政府だ。だからジャーナリストになって総理大臣などの嘘を暴こうと思った。

共産党は戦争中一貫して戦争に反対し、牢屋に入れられた。私は共産党を尊敬した。そして共産主義の中心であるソ連こそ世界で最も平和で最も言論が自由で最も格差がないのだと思った。

モスクワ大学に招かれる機会があり、モスクワ大学の学生とディスカッションすることにした。スターリンを批判したフルシチョフが失脚した件につきディスカッションしようとしたらみんな真っ青になり、そういう話はだめだと言われた。ソ連に言論の自由がないことがわかり絶望した。

当時のマスコミは全部左だった。今では考えられないが、北朝鮮をこの世の楽園であるかのように書く者もいた。私はむしろ韓国こそ発展し、あと数年たつと日本の経済的ライバルになると書いた。そうしたらマスコミで袋叩きに遭った。KCIA から金をもらったとか、キーセンを抱いたのだとか、そんなデマさえ流れた。後に韓国経済は私の言う通りになった。

私と同じ年で京大の高坂教授が「日本国憲法にはしびれたよね」と言った。彼のような人がいなくなってきたから問題だ。それまで女性に選挙権はなかった。大地主と小作人がいたのを、農地改革で、小作人が自分で田んぼをもって耕せるようになった。言論の自由・表現の自由などが保証されて、何でも言えるようになった。

自民党にもいっぱい問題があるが、批判しても牢屋に行かなくてよい。総理大臣の悪口を言っても牢屋に行かなくてよい。これが素晴らしいことだ。

ここに来てアメリカが世界の警察をやめた。「アラブの春」と言って 30 年以上独裁をやっていた人が追い出された。実は独裁者はアメリカの味方だった。アメリカが力を持っていた頃なら「アラブの春」は実現しな

かった。アメリカは仲が良かった独裁者が追い出されるのを黙って見ていた。

「アラブの春」で成立したエジプトの民主政権が追放され、また軍事政権になった。これをまたアメリカが認めた。シリア政権が化学兵器を使ったことはレッドカードだった。オバマは攻撃すると言い出した。アメリカで反対運動が起こり、上院が通過しても下院で通らない。ロシアのプーチンがアサドと会談し、科学兵器を国連の管理下に置くという約束をして、アメリカもそれならよいということになった。

結局オバマは何も出来なかった。

こういう時代に日本はどうすればよいのか。

日本は近所とうまくつき合うのが「下手っぴい」だ。かつては日英同盟、今は日米同盟で遠くの国とは仲良くするのに、韓国や中国など近くの国とはうまくいかない。今の政権も韓国・中国とのパイプがだめだ。

第一次世界大戦に日本はちょっとだけ参加し、この戦争の意味がわからなかった。世界のリーダーがイギリスからアメリカへと変わり、民族の自主独立が謳われ、侵略はだめというように世界の流れが大きく変わったが、日本はそのことを理解していなかった。その理解不足が満州事変や日中戦争につながった。

韓国や中国は歴史の恨みを持っている。特に反日を書き立てるのがマスコミ。そうすると売れるからだ。最近、日本の雑誌も韓国の悪口を書いて売ろうとしているのが問題だ。

中国や韓国の政治家はそれほど反日というわけではない。ただ、下手に日本と仲良くして支持率が下がるのを恐れているだけだ。水面下で本当は日本に何をしてほしいのか、本音を聞き出す努力が必要だ。尖閣諸島の問題も安倍総理と習近平が面子の張り合いをして

いるに過ぎない。私は首脳会議をしると総理に言っている。

「対中包囲網を作れ」と主張する人がいるが全くナンセンス。アメリカは中国を孤立させようなどとは全く思っていない。オバマは習近平と二日にわたって会議した。アメリカなしで中国包囲網など意味がない。アメリカは日本に「何とか韓国や中国と仲良くしてほしい」と願っている。安倍総理大臣も仲良くしたいが、仲良くする方法が見つからない。

私は原発の使用済み核燃料の問題こそが、世界平和のきっかけづくりになると思っている。小泉純一郎元総理が脱原発を言い出したのも、使用済み核燃料の最終処分についてどこの国も全く手がついていないことがきっかけだ。これは一つの国でやるのは無理だ。国際協調でやるしかない。自民党のNo.2やNo.3にも言い、みんな賛成してくれた。使用済み核燃料の最終処分を世界の国が力を合わせて行う。これこそが新しい時代の世界平和の有意義な手段である。



## 本部と支部等の動き

10月5日 世界連邦 21世紀フォーラム講演会 講師：井上一氏  
10月14日 グローバルアクション（国連議員総会）集会 青山  
10月N日 四国協議会総会・地区大会  
10月15日 第一回理事会 衆議院第二議員会館  
11月2日 世界連邦運動協会石川県連合会 秋の講演会 講師 木戸寛孝  
11月2日加古川支部ポスター作文コンクール表彰式

11月9日 京都支部 秋の勉強会 西村議員講演  
11月10日 第31回世界連邦日本大会 in 大阪2013 大阪中之島 グランキューブ大阪 10F  
11月28日 \*関連行事 第34回全国宗教者東京大会 立正佼成会本部 世界連邦日本宗教委員会主催  
12月4日 世界連邦 21世紀フォーラム懇親会  
12月13日 第2回執行理事会 衆議院第二議員会館  
12月14日-26日 青梅市中村美香写真展 市立美術館他

## 第31回世界連邦日本大会宣言文

紛争・テロの防止、核兵器の廃絶、環境の保護、災害対策、世界経済の安定など、一つの国家では解決できない課題がますます増加しています。一つの国家で解決できない課題に対処するには、世界規模のガバナンスを整備していく必要があります。それを進めていくのが世界連邦運動です。

2011年3月11日の東日本大震災では、世界各国から支援が寄せられ、私たちは世界がつながり、助け合っているのだということを改めて実感いたしました。このつながり・絆を意識し、世界連邦のもとで全人類が手を携える日が来るよう、努力して参ります。

平和・環境などに関する国際会議では、各国政府の会合の前に、市民・NGOと意見交換する場が設けられることが多くなり、国際刑事裁判所ローマ規程、対人地雷禁止条約、クラスター爆弾禁止条約など、市民が各国政府を動かして実現した条約が増えています。先日の国連総会で「核兵器の非人道性を訴える共同声明」に日本政府が賛同しましたが、そこにも市民からの強い働きかけがありました。今や外交は政府の専権事項ではなく、平和・環境などの地球規模の課題については、市民の積極的参加が求められている時代なのです。

2020年の東京オリンピックに向けて、今後日本はますます世界の注目を集めていくことでしょう。一方、2011年3月11日に起きた福島第一原発事故は、きわめて深刻な事態を招いており、この問題の解決のためには日本のみならず世界の叡智を結集して取り組む必要があります。日本は経済の発展のみならず、世界全体・地球全体のためにどのような役割を果たしていくべきかを真剣に考えていかなければなりません。

本日、ここ大阪国際会議場には、世界連邦運動の関係者にとどまらず、平和・環境などに関心を持つ多くの市民が集まりました。政策フォーラムでは、日本に大きな期待を寄せるウィリアム・ペイス世界連邦運動協会IGP専務理事から寄せられたビデオレターが紹介され、世界連邦運動推進日本協議会を構成する4団体の代表者たちによる積極的な意見発表がありました。地元大阪での活動として、子どもたちに平和の尊さを伝える「出前平和授業」の取り組みも報告されました。また、基調講演では、田原総一郎さんから、これからの世界平和・これからの日本人について熱いメッセージをいただきました。

今回の日本大会で聴いたこと、学んだこと、感じたことを、世界連邦実現をめざす私たち一人ひとりが現在の社会をよりよいものにしていくために活かし、真の世界平和の実現のために何ができるかを考え、行動していくことをここに誓います。

以上、宣言します。

2013年11月10日

第31回世界連邦日本大会

---

### ウィリアム・ペイス氏のメッセージ

---

世界連邦運動に日本で取り組まれている皆様にご挨拶申し上げます。日本は素晴らしい国です。一昨年行なわれた日本大会の運営も素晴らしく、私は感銘を受けました。今回に日本大会も実り多きものであることを祈っております。世界連邦運動は日本の力強いサポートを必要としています。

われわれが取り組んでいるのは国際刑事裁判所ローマ規程の充実です。「保護する責任」という考え方はこれからますます重要になってきます。

国境を超えた資金調達の仕組みとして金融取引税創設についても日本で取り組まれています、日本

での設立の機運が高まることを願っています。

日本では憲法九条の改憲が取り沙汰されていますが、憲法九条は世界化が望まれるほど素晴らしいものです。日本政府が憲法九条を放棄することのないよう願います。新しい国軍をはじめることのないように、また核保有国とならないように願っています。原子力発電を過去のものにして、持続可能なエネルギーのあり方に変えていけるように。世界連邦運動は人類のよりよき未来のための地球規模の市民運動です。日本の方のご支援をお願いします。日本大会が素晴らしい大会であることをお祈りします。

## 加古川支部ポスター作文展表彰式



11月2日 午後2時から 加古川市総合福祉会館において、第42回世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクールの加古川支部の表彰式が行われました。

受賞ポスターを展示した会場には、33名の児童生徒をはじめ、保護者やご家族、先生など100名以上のご出席をいただき、盛大な式典となりました。

平成25年度青梅市平和事業 平和写真展

開会の言葉に続き幹支部長が、優秀な作品が多く寄せられたお礼と平和への関心を持ち続けてほしいと挨拶し、表彰に移りました。ポスターの部、作文の部の順に表彰状、記念品の授与につづいて、作文の部入賞者5名に作品の朗読をしていただきました。祖父の体験談を通して思ったことや、日常の学びからの考えなど、いずれも素晴らしい内容で、会場を埋め尽くしたみなさんも静かに聞き入っておられました。

閉会後は、展示したポスターを背景に記念写真を撮られる姿が多く見られました。

今年はポスター126点、作文114点とたくさんの応募があり、入賞各5名、入選各10名、佳作各15名の計60名を選出しました。多くの作品の中からの選りすぐりの作品ですので、本選での成績に期待を持っています。

(末松 淳子)

## 青梅支部 平和写真展 山本美香を想う 戦場からの問い

平成25年12月14日～26日

但し16日(月)、24日(火)は休館

午前9時から午後5時(入場は午後4時半まで)

山本美香を想う ～戦場からの問い～

青梅市立美術館 入場無料

2012年8月20日、内戦の続くシリアで凶弾に倒れたジャーナリスト山本美香さんが、戦地で撮影した人々の写真と取材で使用した機材を展示します。また会場では山本美香さんの取材映像を上映します。

12月21日青梅市平和の集い

平和ポスター展表彰式、ヒロシマ親子派遣報告、佐藤和孝氏による平和講演会 午前11時から「生きた、愛した、伝えた!～私と山本美香の17年戦争」



## 京都支部 例会 秋の勉強会 内閣府副大臣 西村康稔氏 特別講演

11月9日高台寺 京大和にて、京都支部の例会及び講演会が催された。会場は満席で、80名の席は幅広い年齢層の参加者で埋まった。



この 伝統古き 文化国家日本を、海外に広く発信するなど、ご活躍のニューリーダーによる、資料を使った解りやすい講演でしたが、質疑応答では、「外交官が夢…」という中学生の質問を受け、和んだ表情を見せる場面もあった。

また、ご自身の著書サイン会では、握手や撮影を求める人の列ができる程で、政治に対する期待の表れと思われる様子だった。

【講演会概要】 講師 西村康稔  
安倍内閣の政策づくりと、アベノミクスの発信を、国内外で精力的に取り組んでおられる 内閣府副大臣のお立場・見解の上、益々と進むグローバル化の中、外交、経済、観光、国際交流等、幅広く日本が進める国家方針とバランスの取れた国際平和社会を目指す、日本の夢あるビジョンを語っていただいた。

西村康稔氏 プロフィール

2003年 衆議院議員 総選挙に於いて初当選。2008年には 外務大臣 政務官に就任。同年9月には 自民党 総裁選に立候補。2012年12月 内閣府 副大臣に就任。

また西村先生には、世界連邦 日本国会委員会にもご所属いただきました。

( 京都支部 支部長 品川幹雄 )

## 「新たな時代の新たな物語～コスモロジー 社会とは～」 木戸寛孝常務理事講演



石川県連合会が主催する2013年秋の講演会は、昨年に引き続き世界連邦運動協会常務理事・NPO法人世界連邦21世紀フォーラム代表の木戸寛孝氏を講師に招いて11月2日(土)13:30～16:00、金沢エクセルホテル東急

5階で開催された。

震災と原発事故から復興を遂げていくにあたり、壁として立ちはだかってくるのが明治維新の際に取り入れられた「近代化」と称される様々な社会の仕組みや制度である。その限界を乗り越えて新たな社会を生み出していくためには、どのような世界観や方向性が求められているのかについて語った。また、人間の基本的な思考の枠組みは、宇宙における人類の立ち位置が大きく変わる時に、あらゆる領域において意識変革が起こる可能性があるという仮説に基づき、近代(地動説)、現代(月面着陸)、未来(未知との遭遇)においてどのような斬新な世界観や思想がもたらされたのか、あるいはもたらされることになるのかについて触れた。

世界連邦運動は、第二次世界大戦における原爆の使用の結果として生まれたものであるが、アインシュタインの名言「全体の破壊を避けるという目標は他のいかなる目標にも優位されなければならない」における「全体」の意味が20世紀と21世紀では意味が大きく変わってきているので、それに応じて世界連邦運動を展開していく必要がある、というのが今回の講演の結論であったように思う。

(平口 哲夫)

## 当たり前のこと感じた4日間 国際平和協会の台北視察団に参加して

国際平和協会は9月26日から4日の日程で台北市を訪問した。少年鑑別所と高齢者施設を訪問するという7人のユニークなツアーである。団長の寶田時雄氏が台湾経済代表処の幹部と話をしていて、「お互いの交流を深めるためには、普段訪れることのない社会的弱者の施設訪問が重要だ」ということで一致し、訪台団が急きょ編成された。その珍道中の一部を紹介したい。

高齢者施設訪問では、当初から通訳はいないと言われていた。不安を感じながらも小生の中途半端な北京語で会話が始まった。そこへ品のいい男性が「お困りでしょう。僕が通訳しましょう」と救いの手を授けてくれ、実のところホッとした。

台湾も日本に劣らず高齢化社会がやってきて高齢者問題は急務。その施設は認知症向けのデイ・サービスと高齢者向け住宅を併設している。高齢者向け住宅は一人で生活できる人々が対象で、シャワー付き個室に食堂での食事サービスがある。

認知症向けのいくつかの部屋を案内してもらった。ほとんど幼稚園か保育園のような飾り付けがあって、色彩も赤、緑、黄色とはなやかであるのに一同驚いた。一番驚いたのはほとんどの高齢者が流暢な日本語をしゃべったことである。

通訳を買って出てくれた男性は「僕は帝大まで出ました。台北大学です」と自己紹介した。戦後六七年を経ているとはいえ、80歳前後の人はみんな日本語で教育を受けた世代なのである。多くの入居者は久しぶりに日本語をしゃべったとみえるが、それぞれに嬉しそうに我々を迎えてくれた。

「日本からお見えになりましたか。なつかしいです」  
「戦後、国民党がやってきて突然、教育は北京語になって困りました」

「北京語には日本語にない発音が多いので苦労しま

した」

日本人がすでに忘れていた丁寧な日本語が交わされ、我々も驚かされた。台湾の高齢者が日本語をしゃべれるのは、考えてみれば当たり前の話である。これまで何人もの元日本人たちと出会ってきたが、これほど多くの元日本人と一堂に会したのは初めての経験だった。

台北少年観護所（鑑別所）では所長を含めて所員が玄関まで出迎えてくれた。日本人の来訪は初めてである。会議室には「国際平和協会歓迎」の垂れ幕があり、幹部が勢揃いし、台湾における最近の少年犯罪について丁寧な説明があった。

男女約150人の少年は当然ながら、幾重にも鍵のかかった所内で生活していた。数カ月ほどで少年院もしくは少年刑務所に送られる少年たちはけっこう明るかった。髪を染めている女子も少なくなく、まだ中学生と見受けられる子もいた。「ニーハオ」「日本から来たんだ」などと話すとニコッと笑って応対してくれた。

2001年、鑑別所に送られた少年は500人を超えていたが、その後100人まで減少、2年前から再び増加に転じている。窃盗などに加えて覚醒剤など薬物使用や売買が増えているということだった。少年達は一般的には番号で呼ばれることになっているが、最近では人権上、名前で呼ぶことにしているのだそうだ。

日本の同様の施設を見学したわけではないので比較はできないが、青森から参加した社会福祉法人の理事長さんは「少年鑑別所の運動会に参加したことはあるが、施設内をこれほど丁寧に見せてもらったことはない」としきりに感心していた。

（国際平和協会 伴武澄）

**編集後記** ★「尾崎行雄を全国に発信する会」から寄稿していただいた。同会を含め、我々と理念を共通する諸団体と連携を深めていきたい。（塩浜）★おかげさまで日本大会が無事終了しました。会場を埋め尽くす入場者を目の当たりにして感銘を受けました。京都・大阪府支部のみなさまのご尽力に感謝します。（阿久根）★よさこい国際交流隊というチームで今年もよさこいを踊った。高知市が年に1度だけ全国区になる時期だが、今年は高知工科大学の「よさこいホリデー」に参加したヨーロッパ、アジアの学生30人が参加してくれ、エネルギーを爆発させた。よさこいが将来グローバルな祭りとなることを夢見ている。（伴武澄）



